

教育助成事業（公募型）

国立極地研究所と共同で「教員南極派遣プログラム」を主催しており、応募者から選考委員会で選考された小・中・高校教員に南極派遣費用を助成しています。また国立極地研究所が主催する中高生南極北極科学コンテストの後援や極地データを教育に活用する教員への助成を行っています。

出版・地図事業

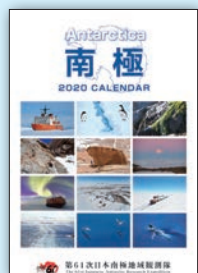
■ 南極と北極の総合誌「極地」

年2回の刊行で、南極・北極の自然と生態系、気候変動、観測・調査活動、教育活動、生活、観光、冒険、経済活動など幅広い話題を取り上げ、人類のフロンティアとしての極地の大切さと面白さを伝えます。オールカラー印刷で、図や写真を豊富に掲載し、視覚的にも楽しめる雑誌です。



■ 南極カレンダー

南極探検・観測の長い歴史の中の特筆すべき出来事が、その起こった月日に記載されており、また各月の写真（主に南極観測隊員が撮った南極の美しい自然）についての解説もあり、カレンダーを見ながら南極について楽しく学ぶことができます。



■ 南極半島地図

最新の南極デジタルデータベースを用いた縮尺250万分の1の地形図（A1サイズ）で、各国の観測基地、南極特別保護区（ASP）、南極史跡記念物（HSM）、重要野鳥生息地（IBA）が記載されており、南極クルーズ船がしばしば立ち寄るサウス・ジョージア島からサウス・シェトランド諸島、アンヴァース島等の拡大図も掲載されています。



■ 南極大陸地図

縮尺1000万分の1（A1サイズ）と縮尺1500万分の1（A2サイズ）の2種類があり、南極大陸の地形（等高線間隔は100m）と周辺の海底地形が表示されています。南極域にある各国の観測基地・飛行場、歴史的な探検・調査ルート、地磁気極の移動軌跡等が記載されています。



■ 北極域地図

縮尺1000万分の1（B1サイズ）と縮尺1500万分の1（A2サイズ）の2種類があり、北極海の海底地形とその周辺の大陸地形が表示されています。国境、主な都市・町、国立公園、自然保護区、歴史的な探検・調査ルート、地磁気極の移動軌跡等が記載されています。



普及・啓発事業

■ 情報発信

財団の活動を広く社会に知ってもらうためにホームページからの情報発信に力を入れています。助成金の申請、講演会申込み、講師派遣申込み、入会や寄付の手続きがホームページからできます。またメールマガジンを季刊で発行し、極地の自然、温暖化の影響、研究・教育活動の成果など幅広い話題を提供しています。フェイスブックでは双方向コミュニケーションを重視して、読者に各種のイベント情報を提供しています。

■ 講演会開催

南極・北極域の自然、環境・生態系、探検の歴史、最新の研究成果等を分かりやすく解説し、青少年教育や生涯学習、企業活動、極地観光などに寄与できるように、南極&北極の魅力講演会、南極・北極教室、市民講座、セミナーを開催しています。

■ 講師派遣

南極地域観測隊員や極地専門家のチャレンジ精神と研究・教育活動の成果を青少年教育や社会に役立てるために、小・中・高校への出前授業、企業・各種団体の研修、生涯学習のために講師派遣を行っています。

小中高校生のためのSDGs/ESD事業

南極・北極域は氷床や海氷の融解によって温暖化が他の地域よりも急激に進行しており、地球環境の未来像を考える教材として最適な場所です。そこで南極・北極での研究・教育活動の最新の成果をもとに、ESD（持続可能な開発のための教育）に使用する副読本「南極・北極から地球の未来を考える」と学習プログラムを出版し、全国の学校に提供し、SDGs（持続可能な開発目標）達成の担い手の育成に貢献します。



ミュージアムショップ事業

東京都立川市にある国立極地研究所の南極・北極科学館内でミュージアムショップを運営しています。科学館見学者のために、財団が刊行した南極・北極地図、南極と北極の総合誌「極地」、南極・北極関係の書籍、南極カレンダー、絵葉書、オリジナルTシャツ、記念切手、南極観測紹介のガチャ玉、ペンギンやしろくまのぬいぐるみを販売しています。



国立極地研究所 / 南極・北極科学館

東京都立川市緑町 10-3
<http://www.nipr.ac.jp/science-museum/>

